

産業
情報

いわて

Industry
Information
Iwate

2019.5・6

VOL. 195

[公財]いわて産業振興センター広報誌

特集／キラリ輝く★いわての企業

有限会社センウッド

コーポレーション

顧客の要望に挑戦しながら

生産する室内空間向上製品

センターのプロフェッショナル紹介／6

岩手のチャレンジャーたち／6

自動車展示会へ出展／7

感謝状贈呈／7

岩手ICL連携室オープンラボ一般公開／7

東京にて物産展を開催／7



大きな工場のなかでは、造作材のエリアと、収納扉のエリアに分けられている



工程改善によって、省スペースで4つの作業を行っている収納扉のライン

顧客の要望に挑戦しながら 生産する室内空間向上製品

八幡平市／有限会社センウッドコーポレーション

主に販路を首都圏に持つ企業

平成元年、パーティクルボードの棚板などを生産する企業として創業して以来、有限会社センウッドコーポレーションは、住空間づくりの一翼を担ってきた。

「当社の取引は、ほとんどが首都圏です」と、千田康洋社長は自社の取引を振り返る。同社の主力商品は、住宅のドアの枠や鴨居や腰板といった造作材と、収納扉で、主にマンションで採用されている。マンション一戸あたりの屋内の収納部位からいって、10

～13枚の収納扉が使われるという。昨年も1年間で73,000枚の収納扉が納められた。

基本は2つの技術

センウッドの主要な技術は、積層合板などの芯材をシートで包むラッピングと、シートを貼った薄いMDF(中密度繊維板)に、Vカットの折り目の線を入れて巻く2つの技術だ。同社では効率化のために、機械では1,200mmの材料に対応できる加工機や、上下同時にカットできる機械、カットした断面の木口(こぐち)に木口シートを

上下同時に貼れる装置など作業工程を減らしていた。

意匠的なところでは、新たに取手部分に独自の工夫をこらした収納扉を開発し、意匠登録及び特許出願中だ。



芯材をVカットした部材でくるむ造作材は、無垢材のような狂いが生じない

工程改善にチャレンジ

利益を出す手段として、千田社長は工程改善に積極的に取り組んできた。「当社は職人的な技術はありますが、生産技術が弱かったため、製品を効率よく造れば利益を出すことができるとわかっていました」と、千田社長。その思いのもと、いわて産業振興センターの指導を受けて昨年8月に収納扉のラインの工程改善を行った。これまでのやり方をなぜ変えなければいけないか社員の理解を得るのも最初は難しかったが、何より、実績が変わった。まだ途中段階であり、今後も改善エリアを広げていくという。



センウッドコーポレーションの製品

講堂一棟の壁材の開発

人口減少のなかでマンションにせよ、個人住宅にせよ戻す癖になることは目にみえているため、同社はそれ以外の製品にも挑戦している。取引のある首都圏の工務店から相談があり、技術を応用して開発し、講堂一棟分の部材を納めた。

求められたのは、音を拡散する凹凸(リップ)がついた不燃性の壁材。「自分も図面を描くので、試作しては持って行き、その場でいろいろ描いて見せながらつめていきました」と社長は語る。2年越しで完成した商品は、ケイ酸カルシウム板を芯材に不燃性を持たせ、木柄のリップの部材が、そのまま空間を演出する意匠性の高い仕上がりとった。同様のものが欲しいとの声もあったという。お客さまの要望を、どうやったらできるかを考え技術で応えるスタイルは、これからも続いていく。



音を分散させるために、Vカットの技術でできたリップ材は、美しい講堂の内装材を兼ねた

✓ 社長メッセージ

現在の主力商品は住宅系のものですが、人口の減少を考えれば新しいものも生み出していかなければと考えています。納期と品質だけではなく、まだまだ改善の余地のある会社ですが、現状のやり方を常に疑いながら、もっといいやり方を考えています。



動画でキラリ
会社訪問



代表取締役社長 千田 康洋

> 社長メモ

地元好摩出身の社長の趣味は冬のスキー。テニス、トレイルランニング、マラソン。休日はもっぱら走っている。今年初開催の盛岡マラソンも登録済み。

一個流しの改善で20%生産向上

問題点

- 工程間に仕掛品が多くあり、工程間の動線も長い
- 作業準備が無いため、作業の平準化が図れない

目標

- 工程間の仕掛品をゼロへ動線の短縮化
- 作業スペースのスマート化による1個流し生産の実現
- 最適な作業標準書の作成による作業平準化

改善

- 設備導入に伴いレイアウト変更を実施
- 作業の抽出・各作業時間を算出
- 作業標準書作成

効果


- 生産能力が20%向上
- 作業エリアが55%縮小
- 機械稼働率18%アップ



担当者 Voice 技術課 佐々木 大

わかってくと工場の中の改善ポイントが見えてくる

最初は指導される話もピンとこなかったのですが、続けるうちに「見る目」が育って、自分で気づくようになりました。当社は「つくりすぎのムダ」など5つくらい該当するムダがありました。現場のジレンマもわかるので、難しいところもあるのですが、続けていかねければと思っています。



改善ポイント

工程改善前

カットし、溝をつけ、木口にシートを貼り、梱包する。この工程の間につねに仕掛品が積まれていた。




工程改善後

一個流し生産により、仕掛品は最終場所のみ集まるラインに改善。作業スペースが確保できるようになった。



企業DATA

会社名 有限会社センウッドコーポレーション	沿革 平成元年/盛岡市(旧玉山村)に会社設立(現・玉山工場)	従業員 28名
代表者 千田 康洋	業種 家具・装備品製造業	資本金 500万円
工場 岩手県八幡平市大更第2地割154-27	工場 平成15年/本社・工場を八幡平市に移転 東京事務所開所	
電話 0195-70-2888	工場 平成29年/収納扉特許出願中	



支援担当の声

(有)センウッドコーポレーション様は、工程改善研修会参加から2年経過されました。初年度は生産繁忙でありながらも改善に対する計画準備を重ね、2年目には確実にその改善成果を上げられました。その取り組む姿勢から今後の活動にも大いに期待が持てます。

工程改善研修会では企業の改善成果を上げること狙いとしながら、併せて異業種との交流を通じ次世代人材育成の相互研鑽の場としても活用していただきたいと思います。

● お問い合わせ
経営支援・産業人材担当 TEL: 019-631-3824



てしろぎ まさる
コーディネーター **手代木 勝**


> 指導者紹介
関東自動車工業横須賀工場の改善推進室長として生産現場の生産性向上等多岐に渡り活躍。平成17年より当センターのコーディネーターに就任。県内企業の改善意識向上に努める。

工程改善とは


生産効率最大42%UP、5社で進む改善の道

製造業に共通するテーマ【いかにムダ・ムラ・ムリ無く、合理的に作るか】、【労働強化によらないムダの排除によるものづくり】の2つを掲げ、トヨタ自動車が生み出したトヨタ生産方式自主研究会をモデルとした実践型の勉強会です。

県内企業5社をグルーピングし、お互いの生産工程を教材に工程改善を実施します。当研修会には県内の自動車関連産業分野のみならず、多くのものづくり企業が参加され、研修後の生産性効率が最大で42%向上した事例もあります。



工程改善の報告会開催



平成31年3月12日に、ホテルシティプラザ北上にて「工程改善研修会活動報告会」を開催いたしました。平成30年度に工程改善研修会に参加いただきました5社の皆様に、各社が行った改善成果を発表していただきました。

＼もっと知りたい/ Q&Aコーナー

Q 改善研修会の期間は?	A 原則2年ですが、希望されて4年参加された企業様もおります。
Q 研修会は年に何回くらい?	A 年に10回程度、開催しております。
Q 1回の研修時間はどれくらい?	A 1回の研修期間は2日間です。参加企業先のいずれかに集合し、異業種の意見を交えながら改善を行います。
Q 研修費用はかかるの?	A 研修は無料で実施しております。

≫ センターのプロフェッショナル紹介

専門知識を活かし、活動していただいている当センターのアドバイザー、コーディネーターをシリーズでご紹介します。

いとう ひろし
伊藤 洋

盛岡市出身。学位:ME&MBA。セイコーインスツルメンツ(株)、Deloitte&Touche、昭和薬品化工(株)等の上場企業取締役CFOを歴任後、平成30年度当センターアドバイザーに就任。

▶これまでのご経験を教えてください。

ブラジル、米国、香港、台湾等6か国に20年以上海外駐在を経験しました。現地法人の新規設立が主業務でしたが、それぞれの国の人や文化、歴史に興味深く、現地スタッフと喜怒哀楽を共にしつつ、法人立上げを成功裡に成し遂げた時の達成感は忘れられません。

▶企業が成長するための要点とは？

強み・得意技(明確な事業領と競争優位条件)を有することが継続的な安定成長の要件だと思います。これ無しでは一過性に終わってしまいます。

▶岩手県内の企業をご覧になった印象は？

競争優位条件のある面白いベンチャー企業が想像以上に存在することが驚きでした。他方、現状以上の成長発展に消極的な企業が少なくないとの印象も受けました。

▶今後の抱負をお聞かせください。

県外・海外での新規取引と展開をお考えの県内企業や県外・海外企業の県内誘致と投資に、国内外の人脈と経験を活かしてお手伝い出来れば幸いです。



≫ 岩手のチャレンジャーたち

新たな事業に取り組む企業関係者をシリーズでご紹介します。

(有)菅原美容室(一関市 千厩町)

菅原美容室は、昭和34年創業の地域から愛されてきた美容院店で、現在の菅原社長がかつて介護施設の職員から「入居のお年寄りもきれいな髪にさせていただくと喜んで元気になるんですよ」という言葉を伺い、施設への訪問サービスだけでなく、個人宅への訪問理美容サービスを計画。当センターの「いわて希望応援ファンド」を活用し、昨年度からサービス事業を展開し、多くのお客様から好評を得ています。菅原社長は、「今後、車いすを利用される方への着付けサービスなど、サービスメニューを拡大していきます」と意気込んでいます。



(有)菅原美容室

一関市千厩町千厩字北方8-5 平成30年度よりファンド事業をご活用。

●いわて希望応援ファンドに関するお問い合わせ 物産振興担当 TEL: 019-631-3823

≫ ニュースピックアップ

センターに関連する取り組みやイベント、報告など最新のニュースをお知らせいたします。

自動車展示会へ出展



「青森・岩手・秋田自動車技術展示会inマツダ」が令和元年5月16日～17日にマツダ本社(広島県)にて開催されました。県内からは17社1大学が出展し、マツダ(株)及びマツダサプライヤーから593名の来場がありました。

●お問い合わせ 取引支援・産業集積担当
TEL: 019-631-3822

感謝状贈呈



いわて産業人材奨学金返還支援基金の賛同企業に対する感謝状贈呈式が、平成31年3月25日(月)に岩手県庁にて行われました。達増知事より、半導体製造の東芝メモリ岩手(株)へ感謝状が贈られました。

●お問い合わせ 経営支援・産業人材担当
TEL: 019-631-3824

岩手ILC連携室オープンラボ一般公開



ILC(国際リニアコライダー)を契機とした情報発信拠点及び研究開発拠点として開設しているオープンラボの一般公開が、平成31年4月24日に行われ、多くの来場者の方に見学いただきました。見学を希望される方は、事前にご予約下さい。

●お問い合わせ 産学連携室
TEL: 019-631-3825

東京にて物産展を開催



平成31年4月24日から6日間、日本橋高島屋にて第48回大いわて展を開催しました。県内から67社の企業が出展し、岩手の食品や工芸品を数多くの来場者にPRする場となりました。今年度は名古屋物産展も再開します。県外のおいわてファンを増やしていきたいと思っております。

●お問い合わせ 物産振興担当
TEL: 019-631-3823

設備導入を支援します

長期	3年～10年
低利	年1.3%～1.7%
無担保	金融機関融資と別枠
貸付 限度額	100万円～1億円(消費税込)
保証金	貸与額の10%(最終償還時に返済)
連帯 保証人	法人の場合：代表者1名 個人の場合：不要

県内中小企業が必要とする機械、設備をセンターが購入し、長期・低利で貸与する公的な制度です。

生産性向上等を目的とする設備の導入を支援いたします。

● お問い合わせ 設備貸与担当
TEL：019-631-3821

受発注取引をマッチング支援します

支援対象企業

ものづくり企業全般

マッチング支援内容

- ① 受・発注企業からのあっせん申込(相談)に対して、企業をご紹介します。
- ② 首都圏ものづくり発注企業等との受発注取引商談会を開催します。(年2回)
- ③ 県が政策的に進める自動車、半導体、情報、医療機器、加速器、縫製業の各関連分野において、県内中小企業の取引拡大等を図る事業を実施します。

各支援事業等につきましては、お気軽にご相談ください。県内中小企業の取引拡大を推進しながら、県内における産業集積を目指し、ものづくりのサプライチェーンの構築を図ります。

● お問い合わせ 取引支援担当
TEL：019-631-3822

奨学金返還を支援します

助成額	最大250万円
低利	就業1年目から奨学金返還額と同額を助成
募集人員	50名程度
募集期限	令和元年10月21日(月)

岩手県内の将来のものづくり産業を担う高度技術者の確保・定着を促進するため、理工系学生が大学等を卒業後、又は既卒者がU・ターンし県内ものづくり企業に一定期間就業した場合に、奨学金の返還支援を行います。

● 詳細は、いわて産業人材奨学金返還支援制度のHPをご覧ください。
検索ワード：いわて奨学金返還

● お問い合わせ 経営支援・産業人材担当
TEL：019-631-3824

賛助会員募集中です

年会費 一口20,000円

会員特典

- ① 広報誌「産業情報いわて」の定期送付
- ② 取引商談会の参加料割引
- ③ 経営管理者向け研修会の参加料割引
- ④ 社内研修用のDVD貸出送料無料

センターの事業は、国や県からの補助・委託事業によって運営されていますが、用途が限定されるため、県内企業の皆様の賛助会費によって、事業費を補っていただいております。

県内企業の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

● お問い合わせ 総務企画担当
TEL：019-631-3820